*# \$6.27	经现金元素 (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				その他			
講義名	教育社会学【教職科目】		授業形態			にて、資料を配布する。		
		BB4#40 03 C 04 00 2 0 1 00 C 2 0 1 00 C			調養運魚	にて、具料を配作する。		
担当教員	池田 曜子	開講期・曜日・時限 前期 火曜日 3 時限	Ķ.		1			
2	757	¥ (5.85 2)	ナンバリング・コ TTC201					
		単位数 2 履修開始年次 2年生	F 110201					
主題と概要								
					授業計画	İ		
教育社会学の代表的な理論および方法論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら、解説します。 特に、教育社会学の理論と子校組織、教育環想との理論に表点を絞ることによって、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を構想していくことができるのかにも目を向けていきます。 また、単なる知恵企図の構築形式にとどまらず、受講者が積極的に小規奏、調査レイト・協議に参議することによって、教育学および社会学の研究・発表手法を多角的に学ぶことに方点をあきます。					第1回:	教育社会学とはどんな学問か	_	
0.100	The state of the s			3,111,000	第3回:	教育在会学の理論:テユルケム・ヴェーバー、バージスティジ・ブルテュ 教育と選抜	1-	
					第4回:第5回:	社会化と配分 学校組織理論と生徒の分化		
					第6回:	教師のストラテジーとしての教育行為 教室秩序の社会的構成		
					第8回:	階級と文化(1):階級、エスニシティと文化		
					第10回	国歌と文化(2):日本の旧篇 主教育問題(1):逸恵が発		
					第12回	・教育の題(2)・私等化社会 ・地域との連携(1)・学校育活動の意義		
					第14回	: 地域との連携(2): これまでの学校づくりと学後の学校のありかた : 安全・危機管理		
					第15回	教育社会学とはどれな学問か 教育社会学の理論:デュルゲム・ウェーバー、バーンスティン・ブルデュ 教育社会学の理論:デュルゲム・ウェーバー、バーンスティン・ブルデュ 教育人を選集が 学校と観理論と生徒の分化 教室科序の社会的構成 開始と文化(1):開級、エスニンティと文化 開始をと文化(1):開級、エスニンティと文化 開始を文化(1):開級、エスニンティと文化 開始を文化(1):開級、エスニンティと文化 開始を文化(1):開級、エスニンティと文化 理教(日間): (2): 私事化社会 「教育問題(2): 私事化社会 :地柱との連携(1): 「本学教育活動の意義 :地柱との連携(1): 「大学教育活動の意義 :世柱との連携(1): 「大学教育活動の意義 :世柱との連携(1): 「たまでの学校づくりと今後の学校のありかた : 安全、危機管理		
到達目標								
 現在の、教育 学んだ知識 	S的な理論を理解できるようになる 可問題について、社会学的な観点から議論できるようになる E自分の日常生活に当てはめて考えることができるようになる							
				l	1			
				l	1			
				l	1			
是出課題								
	値を提出してもらいます。				1			
					授業形態	(アクティブ・ラーニング)		
						ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
						ウ:ディスカッション、ディベート		T: 次和30条(AI開目行の安然で10条71に対象で、AI開開的での安然で45至で11つ10条77位) エ: グループワーク
						フ∶ティスカッション、ティベート オ:ブレゼンテーション	0	
					⊢ ⊸		 	カ:実習、フィールドワーク
					\vdash	キ:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場	場台)	
					準備学術	(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間		
田晴(1.北二)	・カルテフト笑)に対するフィードバックの女法				各授業	「必要な資料を配付し説明を行います。 」を次週の授業までに熟练し、理解できない部分を明確にし、分からなか。	った部分について質問ができる	ようにしておいてください。(2時間) にしておくことが必要です。不明点は、次回授業時に質問してください。(2時間)
	- や小テスト等)に対するフィードバックの方法				256	授業で取り扱った内容は、授業後、課題作成の際に配布資料をもとに復	習し、自己の理解程度を再確認	しておくことが必要です。不明点は、次回授業時に質問してください。 (2時間)
各授業時に提出 (していただいた課題内容の共有すべき内容や質問については、次3	圏の授業の初めにフィードバックを行います。						
					ate NIK ATE			
						・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
評価の基準					商学部 本授業	ーケティング学科では、企業環境をマーケティングの視点で捉え、現状を も、自ら考え、自ら判断し、主体的に行動することが求められます。	を改変する努力を持続すること	ができる学生を育てます。
課題(25%)	(4504.)							
護題 (25%) 授集內在①形表(15%) 最終試験 (60%)								
I								
					1			
				l	1			
履修にあたっ?	の注意・助言他				L			
		±1.1			双方向抗	業の実施及びICTの活用に関する記述		
授業の内容に関連のある時事問題にも興味を持ち、積極的に情報を収集してください。 欠席すると、理解が難しくなります。 遅刻、 欠席に注意してください。					双方向扩	業は実施しない。		
				実務経り	の有無及び活用			
I					1			
				l	1			
				l	1			
0科書					1			
.使用しない.			T T		1			
		+	 					
					備考			
参考図書								
.なし.					1			
					1			
		+	 		1			